

令和6年度 第1学年 技術・家庭科(技術分野) 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	ガイダンス 生活や社会における 技術の役割と見方・考え	3	○技術の役割・見方・考え方 ○技術と生活・産業・環境 ●技術の発達と私たちの生活との 関係などを調べる。 ●身近な技術製品を考えさせ4つ の分野に分類してまとめる。	・生活や社会で利用されている材料、 加工、生物育成、エネルギー変換及び 情報の技術についての基礎的な理解 とそれらに係る技能・技術と生活や社会、 環境との関わりについて理解できる	・学習の進め方、作業の安全の大切さ がイメージできている。	・技術の進展と環境との関係について 関心を示している。 ・生活と技術の関係を深く知り、技術が 果たしている役割を知ろうとする態度 がある。
5	D情報の技術 1 情報とコンピュータ 情報の表現と伝達	2	○インターネットの利用 ○情報セキュリティ ○情報通信ネットワークの危険性 ●Webページにアクセスし、インター ネットの利用について調べる。	・著作権の利用など発信者としての責任 についての知識を身に付けている(知) ・コンピュータの構成と情報処理の仕組 みについての知識を身に付けている(知) ・設計に基づき、適切なソフトウェアを用 いて多様なメディアを複合し、表現や 発信ができる(技) ・Webページを利用して調べることが できる(技) ・条件を絞り込んで検索できる(技)	・Webページの使用目的を明確にして、 生活や社会の中から問題を見出して 課題を設定し解決する力がある。 ・情報の技術に込められた工夫を読み とる力がある。 ・情報の技術の見方・考え方の気付き がある。	・学習内容について関心をもっている。 ・情報社会において適切に活動しよう としている。
	2 情報セキュリティ と情報モラル	2	○利用するときのモラル ○人権や個人情報、知的財産の 保護 ●SNSやネット上のモラルについ て調べ、その危険性や対応など をまとめる	・著作権や情報発信に伴って発生する 問題と発信者の責任についての知識 を身に付けている(知)	・情報に関する利用場面に応じて、 適正な行動を考えている。	・コンピュータ犯罪の深刻さを理解しよ うとしている ・IDやパスワードの重要性に関心をもち、 セキュリティの大切さを認識して いる。
7	A 材料と加工の技術 1 材料を利用するた めの技術	5	○様々な材料 ○材料の特徴 ●身の回りで使われている材料の 特徴を班単位で調べて発表する。 ●特に木材・金属・プラスチックの 性質を個人でまとめる。	・材料に適した作業方法についての知 識を身に付けている(知) ・様々な材料についてWebで調べて、 まとめることができる(技)	・生活や社会の中から材料と加工の 技術に関わる問題を見出して課題 を設定し解決する力がある。 ・使用目的や使用条件によって、機能 や構造、材料や加工法などを決定し ている。	・ものづくりの技術や進歩と環境との 関係について関心を示している。
8	2 製図	5	○機能の検討 ○製図 ●等角図と第三角法を使いワー クシートに製図をする。 班単位で正確に製図ができたか を確認する。	・製作図の必要性や等角図、第三角法 の描き方についての知識を身に付け ている(知) ・等角図、第三角法などで基本的な製 作図を描き表すことができる(技)	・定期的な使い方を工夫し、作図に取り 組める。	・立体の形を正確に捉えようと観察する ことができる ・新しい発想を生み出そうとしている。
9						
10	3 製作のための技能 (木材加工)	15	○けがき ●けがきをする際に配慮することを 周囲と確認しながら作業をすすめる。 ○材料を切断線にしたがって切断 する。 ●切断時には協力をし、材料に 破損がでないようにグループで 作業をする。 ○寸法線にしたがって図面通りに 加工する。 ○部品の検査と修正 ●さしがねや直角定規を用いて 検査を行う。 ○組み立て ●正確な組み立てのために周囲と 相互に協力して作業を進める。	・製作工程を理解し、まとめることが できる(知) ・工具の名称・作業方法を理解できる(知) ・製作品に合ったさまざまな加工を適 切に行うことができる(技) ・工具を適切に管理、使用できる(技) ・安全に留意し、的確な作業ができる(技) ・木工作业において、安全・適切な製作 や検査・点検等ができる技能がある(技)	・切りしろ、削りしろを考えて、材料取り ができる。 ・適切な作業手順・方法を考えて製作に 取り組める ・材料と加工の技術の見方・考え方を 働かせて、問題を見出して課題を設 定し解決できる力がある。	・材料と加工に関する技術の課題をす ずんで見つけ適切な解決策を示そう としている。 ・安全に作業しようとしている ・良い作品を作ろうとする積極的な態度 がある。
11						
12						
1						
2	4 材料と加工の技術 の評価・活用	3	○製作を振り返る ●ワークシートを記入する。 ●ワークシートを自己評価として プレゼンテーション製作をする ●相互に自己評価を見合う	・材料の特徴や環境の関わりについ ての知識を身に付けている(知) ・組み立て後の検査ができる(技) ・プレゼンテーションの基本的な機能 が使える(技)	・他者にも作業の振り返りや工夫点な どを伝えることができる。	・製作の課題を見つけ、比較検討し、 適切な解決策を示そうとしている。
3						
評価方法				授業観察・作品 定期考査・確認テスト	授業観察・レポートの作成 ワークシート・発表・話し合い	授業観察・ノート点検 ワークシート・授業中の発言
比率				34%	33%	33%

令和6年度 第2学年 技術・家庭科(技術分野) 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	○主な学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5 6	C 生物育成の技術 1 様々な生物育成の技術 ①作物の栽培技術 ②動物の飼育技術 ③水産生物の栽培技術 ④森林の育成技術	5	○私たちの生活と生物育成 ○生物育成の技術 ●ワークシートを班単位でまとめ、生物育成に関する技術の生かし方を考える。 ●植物、動物、水産生物、森林の利用や供給の技術を調べる	・資材や用具を適切に用いて、管理作業を実施している(知) ・生物育成のサイクルや育成計画の立て方を知る(技) ・いろいろな環境要因が生物の成長に与える影響についての知識を身に付けている(技)	・条件に応じて、作業の手順や肥料を適切に選択し、栽培計画を考えている。 ・生物育成の技術に込められた工夫を読み取る力がある。 生活や社会の中から技術の見方・考え方の気づきがある。	・生物育成に関する技術が生活に果たす役割について関心を示している
	2 生物育成の技術による問題解決	2	○生物育成の栽培と計画 ○実習の記録と環境管理 ●班単位で毎日の管理を行い記録する。	・作物に適した栽培時期、栽培に適した土や堆肥、種まきから収穫までの方法について説明できる(技)	・作物の生長の変化に応じて、管理作業や肥料が適切に選択できるように考えている。	・毎日の生育管理に積極的に取り組もうという態度がある。
	7	B エネルギー変換の技術 1 エネルギー資源の利用	2	○エネルギーとその変換 ●エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みについてワークシートにまとめ、発表する。	・設計に基づき、安全を踏まえた製作品の組み立て、調整、電気回路の配線及び回路計を用いた点検ができる(知) ・社会で利用されているエネルギー変換に関する技術についての知識を身に付けている(知)	・エネルギー変換に関する技術が生活や社会に果たす役割と影響についての問題に目を向け、その解決方法を考えることができる。
8 9	2 電気を作る仕組みを知ろう	2	○様々な発電方式 ●発電方式の特徴と課題を調べ班で発表する。	・Webで様々な発電方式について調べ、まとめることができる(技) ・様々な発電方式の特徴の知識を身に付けている(知)		・様々な発電方式の仕組み、特徴、CO2排出量と社会との関連に関心を示している。
	3 電気の利用(供給の仕組み)	2	○電源の種類と電気の特徴 ●コンセントや電池を例に電源の種類を調べさせる。	・電源の種類や特徴についての知識を身に付けている(知)	・製作品の使用目的や使用条件を明確にし、製作品に適したエネルギーの変換方法を定めることができる。	・生活とエネルギーの関係に関心を示している。
10	4 電気回路と回路図 電気エネルギーの特徴	1	○電気機器の回路図 ●どのように利用されているか話し合う。	・簡単な回路図を書くことができる(技) ・回路図で使用する図記号を理解している(知)	・エネルギー変換の技術の見方・考え方の気づきがある。	
	5 電気機器の安全利用 電気機器の保守点検	3	○電気機器の構造 ○電波を音に変える仕組み ●電子部品の役割を調べ、エネルギー変換の流れを班で話し合う。	・漏電、感電、加熱および短絡による事故を防止できる(技) ・電気機器の定格表示や許容電流を守るなど適切な知識を身に付けている(知)	・生活や社会の中からエネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせて、課題を解決する力がある。	・電気機器の構造に興味関心をもっている。
	6 エネルギー変換の技術による問題解決(ラジオの製作)	11	○ウッディラジオの製作 ○本体木枠の製作 ○ラジオ基板の製作 ○組み立て ○視聴・調整 ○作業の振り返り ●班で協力しながらラジオの製作を通して、エネルギー変換の流れを確認する。	・製作品の組み立てと調整、点検ができる(技) ・組み立てや調整に必要な工具や危機の適切な使用方法について知ることができる(知)	・エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見出して課題を設定し解決できる力がある。	・製作品の組み立て、調整や電気回路の配線や点検に関心を示している。
12	エネルギー変換の技術の評価・活用	1	○ワークシートによる作業の評価	・エネルギー変換に関する技術が社会や環境に与える影響を理解している(知)	・エネルギー変換の課題を明確にし、社会的・環境的な面から検討できる。	・エネルギー変換の課題をすすんで見つけ、適切な解決策を考えていた。
1 2 3	D 情報の技術 1 情報とコンピュータ 情報のデジタル化 デジタル情報の特徴	6	○情報を処理する仕組み ○デジタル化の方法 ●アナログとデジタルの違いを考えさせ、ワークシートで作業した内容を班ごとに確認する。 ○デジタル化した情報の量と保存 ●デジタル化した情報量がいかに大きいかをイメージできるように、パワーポイント等で視覚化し、その保存方法にも触れる。 ○デジタルを使用した画像処理の方法をワークシート状で簡単に再現する作業を個人で行う。	・適切なソフトウェアを用いて多様なメディアを複合し表現や発信ができる(技) ・アナログを2進法で表し、デジタルに変換することができる(技) ・テキストや簡単な画像のデジタル処理の変換ができる(技) ・基本的な情報処理の仕組みを理解している(知) ・情報をコンピュータで利用するために必要なデジタル化の方法についての知識を身に付けている(知)	・生活の中にあるデジタルとアナログを意識し、その特徴と利用法を考慮比較検討ができる。 ・アナログをデジタルに変換する上で適切に選択し、表現ができる。	・デジタルとアナログの違いがわかり、デジタルと情報社会の関係性に関心を示している。 ・テキストや画像のデジタル化の方法やデータの関連性について関心を示している。
	2					
	3					
評価方法				授業観察・作品 定期考査・確認テスト	授業観察・レポートの作成 ワークシート・発表・話し合い	授業観察・ノート点検 ワークシート・授業中の発言
比率				34%	33%	33%

令和6年度 第3学年 技術・家庭科(技術分野) 年間指導計画

月	単元名・項目名	時数	学習内容(何を学ぶか) ●学習方法(どのように学ぶか)	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	D 情報の技術 1生活や社会を支える情報の技術	8	○情報の基礎的な技術の仕組みを知り、情報処理の手順とプログラミングを制作する。 ●スクラッチを使用してプログラミングの概念を知る。目的の動きをさせるための手順を考えプログラミングを制作する。 ○双方向性のあるコンテンツのプログラミングを利用した問題解決の手順を知り、双方向性のあるコンテンツの考え方を理解し、そこに含まれる情報伝達の仕組みを理解する。 ●スクラッチのMesh機能を使ったメッセージ交換アプリのプログラミングを制作し相互評価する	他のプログラムを参考に動作の複雑化に取り組める(技) プログラミングの概要を理解している(知) プログラムによる情報の処理と手順についての知識を身に付けている(知) 双方向性のあるコンテンツの考え方に含まれる情報伝達の仕組みを理解している(知)	目的や条件に応じて情報処理の手順を工夫している。 イメージした動きが表現できるように、プログラミングの手順を考え、工夫することができる。 情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見出して課題を設定し解決できる。	プログラミングの制作に意欲的である。 進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技術を身に付けようとする態度がある。
5	2 双方向性のあるコンテンツによる問題解決					
6						
7						
8						
9	2 計測・制御による問題解決	8	○生活の中の計測・制御 ●スクラッチを使用してプログラミングの概念を知る ○計測・制御のしくみ ○情報処理の手順とプログラミング ●目的の動きをさせるための手順をスクラッチでプログラミングする。 ○プログラムによる模型の制御 ●ロボットのプログラム制御を実際に動かして学習する	簡単なプログラムを基本とし、他のプログラムを参考に動作の複雑化に取り組める(技) 情報処理の手順を考え、簡単な計測・制御のプログラムを作成できる(技) ロボットをプログラミングでイメージ通りに動かすことができる(技) プログラミングの概要を理解している(知) プログラミングによる情報処理と手順についての知識を身に付けている(知)	目的や条件に応じて情報処理の手順を工夫している イメージした動きができるように、プログラミングを表現する手順を考え、工夫することができる 情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見出して課題を設定し解決できる力がある。	コンピュータ制御に興味と関心を持ち、活用しようという気持ちをもつ。 プログラミングの製作に意欲的である。 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとする態度がある。 自らの問題解決とその過程を振り返りよりよいものとなるように、改善・修正しようとする態度がある。
10						
11						
12						
1						
2	3 情報の技術の評価と活用	1	○ワークシートによる作業の評価	作成したプログラムを見直し、改善できる(技) 技術の発達と生活・産業の関係性を理解できた(知)	新しい発想を生み出しプログラム製作に活用しようとしている。	プログラムの開発に興味を持つことができる。
3	技術分野の学習を将来に生かそう(技術の評価活用)	1	○学習内容の振り返り ○タイピングなどの補足学習 ●技術の発達によって生活や産業の進化を考える	生活や社会に果たす役割や影響に基づいた情報の技術を理解できた(知) タッチタイピングを理解し、ホームポジションでキーが打てる(技)	持続可能な社会の構築に向けて、情報技術の適切に選択・管理運用したり改良、応用しようとする。	技術が果たしている役割に関心を示し、持続可能な社会の構築に向けて情報の技術を工夫し想像していこうとする態度である
評価方法				授業観察・作品定期考査・確認テスト	授業観察・レポートの作成 ワークシート・発表・話し合い	授業観察・ノート点検 ワークシート・授業中の発言
比率				34%	33%	33%